

広島県中小企業団体中央会 2014年10月分情報連絡一覧表

(食料品)

食料品

中国醤油醸造協同組合

10月の出荷量は前月比22.4%増加、前年同月比8.3%増加、売上高は前月比19.3%増加、前年同月比7.0%増加となった。

為替の影響により、今後は厳しさを増すことが予想される。

(木材・木製品)

木材・木製品

広島県木材協同組合連合会

平成26年9月の全国新設住宅着工数は、75,882戸(前年同月比14.3%減少)、季節調整済年率換算値では88.0万戸(前月比4.1%増加)である。利用関係別にみると、持家は24,617戸で前年同月23.4%減少、分譲住宅は20,296戸で前年同月15.3%減少、貸家は30,082戸で前年同月5.7%減少となった。木造住宅着工数は、42,979戸で前年同月12.5%減少となった。

住宅着工の動向については、消費マインドの改善等もあり堅調に推移してきたが、消費税率の引上げに伴う駆け込み需要の反動もあり、実数では前年同月より減少している。持家(注文住宅)及び分譲マンションの着工については、本年2月から前年同月比で減少している。用地確保の難航等複合的要因が着工数減少に影響していると考えられる。このような状況のもと、今後の動向を注視する必要がある。

広島県内の着工数は1,313戸で前年同月10.9%の減少となった。その内訳としては、持家が432戸で前年同月29.1%の減少で、貸家が460戸で前年同月20.1%の減少に対し、分譲が347戸で前年同月21.3%の増加となった。

木材・木製品

福山木材協同組合

昨年が良すぎたため、前年同月比減少は仕方がない。9月に比べると10、11月は忙しくなりそうである。

(印刷)

出版・印刷・同関連

広島県印刷工業組合

厳しい景況が続いている。

(化学・ゴム)

工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

上半期は、消費税増税前の駆け込み需要の残りが残り、前年度上半期と同程度の仕事量確保が出来たが、上半期に入り、円安進行にもかかわらず、対前年でマイナス売上の傾向である。国内販売不振、現地生産移行が要因と思われる。また円安も115円に近づきつつあり、輸出業界においても、原材料、エネルギー費の増加、国内物価上昇の影響が心配され、行き過ぎではないかとの声が出始めている。労働者確保も不透明である。

プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

10月の自動車関連売上は、新車の販売が好調で、各社売上増の傾向にある。他は横ばいまたは下降傾向にある。

このところの急激な再円安傾向に伴い、原材料・エネルギー等の値上げが懸念される。

消費財市場の需要は依然として低迷している。経営環境は厳しい状態にあり、更なるコスト改善への取組みが各社求められる。

(窯業・土石製品)

窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況(24工場)

26年10月 3,711 m³ (対前年比 6.1%減少)

26年9月 3,234 m³

25年10月 3,950 m³

本年10月から新契約分を800円値上げした。昨今のさらなる原材料の値上げ、燃料費高騰、諸物価の上昇などによるコストアップ等により販売価格の改定をお願いした。前回の価格改定は平成21年1月1日。

(一般機器)

一般機械器具

協同組合三菱広島協力会

広島県西部地区において、タービン・コンプレッサ、製鉄機械、ゴムタイヤ機械、搬送機器等が低操業で、航空機のみ高操業となっている。それに伴い協力会社各社は航空機関連以外は低操業となっている。

一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

10月は前月比13%減少、前年同月比6%増加となった。前月比13%減少の要因は、9月は半期で大型物件が重なっていたためである。

(電気機器)

電気機械器具

(電気) 広島県東部機械金属工業協同組合

前月比、前年同月比共に変化なしとなった。

人の集まりがよくない。特にパートタイマーの集まりが悪い。最低賃金が高すぎてコスト面で非常に圧迫感がある。コストダウン要求が厳しく、収益面は苦しい。

(輸送用機器)

輸送用機械器具(造船)

(社) 中国小型船舶工業会

中小造船業については大きな変化はない。また、円安の関係で、資機材の値上がりが出ている。

輸送用機械器具（造船）

中国地区造船協議会

中手・大手の2,500総トン以上の平成26年10月分の建造許可は6隻226,900総トン(前月8隻、245,200総トン、前年同月11隻522,399総トン)であった。なお、6隻の内訳は、全て貨物船で輸出船である。

業況については、円安で船価(ドル建て)は良くないが、いい方向へは向かっている。

輸送用機械器具（造船関連団地）

呉鉄工業団地協同組合

原材料の高騰により収益性が悪化している。

輸送用機械器具（自動車）

東友会協同組合

10月の国内自動車販売台数は全需が396千台、前年同月比6.0%減少と4ヶ月連続の前年割れとなった。消費税増税による影響からの回復の兆しが見えない。登録車は前年比9.1%減少と3ヶ月連続の前年割れ、軽自動車は0.7%減少と2ヶ月振りに前年割れとなった。しかし、マツダ車は9月発売の新車効果があり7.9%増加と7ヶ月振りに前年超えとなった。

アメリカの9月の全需は1,246千台で前年同月比9.4%増加。マツダ車も同6.7%増加と7ヶ月連続の前年超えとなった。

欧州の9月の全需は1,516千台で、前年同月比3.1%増加と2ヶ月振りの前年越えとなった。マツダ車も同16.8%増加と好調で17ヶ月連続の前年超えとなった。

中国の9月の全需は2,094千台で、前年同月比8.2%増加。マツダ車も5.6%増加と7ヶ月連続の前年超えとなった。

上記各地域の状況下、マツダ車の9月の海外販売合計台数は105千台、前年同月比11.3%増加と15ヶ月連続の前年越えとなった。

マツダは北米、欧州向けの輸出台数が前年比で大幅なマイナスとなり、全体では前年比7.2%減少と2ヶ月連続の前年割れとなった。

マツダの9月の国内生産台数は、前年同月比4.5%減少となり、2ヶ月振りに前年割れとなった。

（その他）

家具・装備品

広島家具工業協同組合

9月は中旬以降厳しい状況である。10月に入ってからには特に厳しく受注においては各社ばらつきがあり、前年比5%減少前後で推移している。比較的高級品をメインにしているところはまずまずであるが、中級品、低価格のものを扱っているところは苦戦している。

10月末からの円安の影響に伴い、年末から資材の価格上昇が懸念される。資材関係は輸入品が多く、収益に大きく影響を及ぼすことが予想される。

（卸売業）

卸売業（総合）

協同組合広島総合卸センター

10月は、公共料金・輸出製品・輸送コストの値上げ、さらには人件費の引き上げ等、中小企業にとって収支圧迫要因が増加している。さらに、急激な円安進行に対し、不安もある。大企業と中小企業の景況感は大きなギャップが生じている。

「資材関連」においては、工事関連業者は秋口以降の需要回復を見込んでいたが、受注状況は停滞気味、大口需要は期待できない状況である。

「食品」においては、売上は前年並みで推移しているが、輸送コストの引き下げの影響は大きく、収支を圧迫している。

「繊維」においては、消費税増税に伴う反動減の影響が続いており、引き続き売上においては苦戦中である。繊維関連は輸入業者が多く、円安の影響は極めて大きく、来年春夏の仕入れから影響が懸念されている。

「雑貨」においては、日用雑貨は前年並みで推移している。

卸売業（生鮮）

広島水産物仲卸協同組合

台風の影響で販売商品不足、個人消費も思わしくなかったが各社営業にがんばった。

卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

期首の予想としては、第2四半期以降、市場の動きが活発になっていくと思われたが、現在、そのような状況にない。広島県住宅着工数も8月着工は、前年比20.7%減少と引き続き悪く、今後の仕上げ材料等の動きも鈍くなる様子である。好調な動きで推移してきた太陽光関連商品の動きが多少止まってきている様子である。

今後も大きな需要が期待される状況にはなく、引き続きリニューアル、リフォーム、また新商材の普及に対し、キメ細かな提案活動を続けていく事が大切である。

卸売業（畳・敷物）

広島県藁製品商業協同組合

国内産地では、秋の展示会やキャンペーンが終盤にさしかかりつつある。秋の米の収穫も終わり、既に畳表の産地では、生産がフル稼働状態で推移している。価格は高値横ばいで推移しており、この状態はしばらく続くものと見ている。

中国産地では、最盛期でフル稼働状態であり、相場もやや落ち着き、輸入業者間では、積極的な買い付けが見られる。しかし、寧波と四川では若干の価格差があるようで、四川産の畳表のほうが、輸入業者間では100円～200円程度高値で取引されている模様である。また、年々畳表の代替品の躍進により、畳表の消費が減少傾向にあり、畳表市場は決して楽観視できない。自然の畳表の良さをもっとエンドユーザーに知って頂きたいとの思いである。

（小売業）

各種商品小売業

協同組合三次ショッピングセンター

10月には新テナントの総菜店がオープンし、集客力もあり、売上は好調である。明るく綺麗な店舗が出来、ショッピングセンターのイメージも良くなった。

各種商品小売業

チューリップチェーン商業協同組合

今月の売上は対前年比増加となった。要因としては外売りの増加があげられる。主力商品である野菜が8月の台風や曇天の影響により、市場への商品入荷が減少し、9月の相場が急上昇した。しかし、それも一段落し、10月は一変して相場安となった。これにより、店売りは単価安で前年を大きく下回った。

また、残暑が厳しかった前年と比べると特に飲料の売り上げが減少している。現在、「ご当地らーめん大会」という企画でカップラーメンの特集を組んで販売しており、好評を得ている。

飲食料品小売業

東広島食糧企業組合

米価の値下げにより売上が減少している。

家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

10月度の販売実績は前年同月比12.6%減少となった。商品別では、薄型テレビ前年同月比7.6%減少、BDレコーダー同14.5%減少、音響・車載機器同28.9%減少、冷蔵庫同1.2%減少、洗濯機同10.8%減少、エアコン同21.4%減少、エコキュート同8.3%減少、IHクッキングヒーター同10.6%減少となった。

合同展示会等の効果により、冷蔵庫の販売は回復したが、その他の商品は依然回復の兆しが見られない。太陽光パネルは売れているが、今後は電力会社及び行政の動向により大きく左右されそうである。

(商店街)

商店街(各種商品小売業)

呉本通商店街振興組合

組合の若手を中心に地域を盛り上げようと「呉活性化プロジェクト～呉から盛り上げ隊～」が組織された。

10月中旬に近隣へ食料品販売スーパーがオープンしたが、当商店街への影響は少ないと思われる。

(サービス業)

自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は前月比6.5%減少、前年同月比3.5%減少。車検場収入は前月比8.1%減少、前年同月比5.6%減少。重量税・登録印紙の売上は前月比15.4%減少、前年同月比8.7%減少となっている。

広告業

広島県広告美術協同組合連合会

材料支給で取り付けのみの施工が増え、売上、収益共に下降傾向である。年末商戦への動きは鈍い。

情報サービス

(社) 広島県情報産業協会

案件において、依然として都市部に集中している。広島においては、J a v a 技術者の余剰人材がない状況である。消費税増税が景況へどのような悪影響を及ぼすか不安視している。

(建設業)

工事業

神辺建設業協同組合

燃料や人件費の上昇による価格改定が多くの建設資材で見られるが、公共工事で採用される資材価格には追いついておらず、業者の収益が伸び悩んでいる。生コンクリートを使用したコンクリート二次製品等の実勢価格を見直す必要がある。

工事業

広島県室内装飾事業協同組合

10月の売上について前月比46%減少、前年同月比8%減少となっており、前月比の落ち込みが大きかったが、累計前年比では8%増加で推移している。

前月比で見るとカーテン工事は52%減少、壁装工事44%減少と大きく落ち込んだが、敷物が18%増加と前月を上回った。

前年同月比でもカーテン工事は14%減少、壁装工事も5%減少と前月を下回り、敷物は前年同月比23%増加で推移した。

前年同月比で見ると、カーテン、壁装工事とも前月比のような極端な落ち込みはなく推移している。各月ごとでは大きな変動があるものの、前年累計対比では7%増加となっているが、壁装工事全体では低調であった。

工事業

福山地区電気工事業協同組合

10月における工事受注件数は前月比28.7%増加、前年同月比7.5%減少となった。

(運輸業)

道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

燃料価格が下落しつつあるが、円安傾向にあり、今後の動向に注目したい。

道路貨物運送業

広島県ロジネット協同組合

10月の荷動きについて、鉄鋼関連が顕著な動きを見せたが、第1週と月末に荷物のピークがきたのは昨年と同じで、10月は平均して荷物が動くのが特徴のようである。

例年通り来月以降はさらに荷動きが活発になると予想している。例年、車両不足が懸念される所だが、10月の状況はようやくそれも落ち着いてきた感がある。

軽油の動向については、値下げ傾向で推移している。要因としては、中国の経済成長指数が伸び悩んだことが大きいようである。国内で確保している在庫も売れ残っている様子である。台風などの自然災害の影響もあり、需要が大きく見込めなかったことも要因の一つと言

われている。こうした状況の中で、反発する動きもあったようではあるが、結果的には1年半ぶりに3円/Lマイナスとなった。しかし、物流業界にとっては、高値安定の状況は依然として厳しいと言わざるを得ない。

道路貨物運送業

松永地区トラック事業協同組合

10月は、輸送貨物においても安定してきた中で、年末の繁忙期が近づいているといった状況で、車両不足が始まりつつある。原油価格も下がり、少しは軽油単価も下がり始めているが、相変わらず経営的には厳しく、40年以上運送業をされていた松永支部の会員事業者がこの10月で事業廃止された。

運賃の下落により経営にゆとりがなくなり、車両の修理代の支払いにも困る状況で、故障車両は修理できず、次々と減車していった末の廃業であった。古い事業者ほど同様の状況に陥っている事業者は多い。また乗務員も新旧交代が出来ず、運転者が定年になれば減車する方向で進んでいる。

水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

燃料の高騰により燃料費のコストアップが続いている。

船員の高年齢化が進み、船員不足である。若年船員が育たない。

運賃、用船料の改善が見られない。

(その他)

不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

9月には地価調査基準値評価報酬の振り込みがあったが、10月はその分の売上がないため、減少、悪化している。

前年同月比は特に変化はない。土砂災害以降、不動産取引がやや沈静化している。